

新得町の小5と中2の「体力・運動能力・運動習慣」

平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を町内の小学校と中学校で実施しましたので、結果を公表します。

教育委員会及び各学校では、結果を分析・検証し、成果と課題を明確にした上で、今後の学校教育に役立てていきます。

なお、本調査から見える結果は特定部分であり、一側面を表したものであることから、新得町の児童生徒の体力・運動能力、運動習慣の全てではありません。



《平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の内容》

◆調査期日

平成29年7月

◆対象学年

小学校5年生、中学校2年生

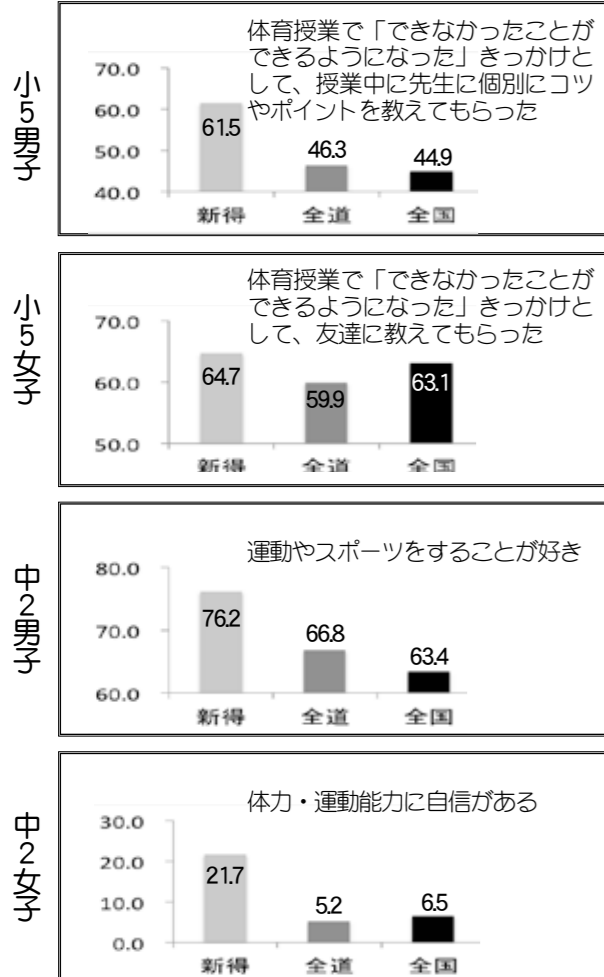
◆調査目的

- ①児童生徒の体力・運動能力、運動習慣の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②児童生徒の体力・運動能力、運動習慣の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

◆調査内容

- ①実技に関する調査
 (1) 小学校「8種目」
 握力、上体起こし、長座体前屈、立ち幅とび、ソフトボール投げ
 (2) 中学校「8種目」
 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、50m走、20mシャトルラン、立ち幅とび、ハンドボール投げ ※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択
- ②質問紙調査
 運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

◆◆運動習慣等調査から見えてくること◆◆



※それぞれ30以上の項目から特徴的な1項目を抜粋

【小学校】

《家庭生活》

・9割の児童が、朝食と夕食を毎日食へていふ。

《運動面》

- ・9割の児童が、運動やスポーツをすることを好んでいて、大切なものと思っている。
- ・9割の児童が、ものごとを最後までやりとげて嬉しかったことがある。
- ・6割の児童が、体育の授業の最後に振り返りの活動がなされていないと思っている。
- ・3割の児童が、体力テストや体力向上について自分なりの目標が立てられていない。

【中学校】

《家庭生活》

・9割の生徒が、朝食と夕食を毎日食へていふ。

《運動面》

- ・9割の生徒が、ものごとを最後までやりとげて嬉しかったことがある。
- ・9割の生徒が、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している。
- ・6割の生徒が、保健体育の授業で学んだことを授業以外のときにも行ってみようと思っている。
- ・5割の生徒が、保健体育の授業で学習している内容は将来の役に立たないと思っている。

◆◆体力・運動能力調査から見えてくること◆◆

《体格の比較》

項目	小5(男子)		小5(女子)		中2(男子)		中2(女子)	
	身長	体重	身長	体重	身長	体重	身長	体重
新得町	141.4	39.2	138.9	35.5	157.4	44.7	155.1	47.7
全道	139.4	35.6	140.8	35.2	161.2	50.6	155.3	47.5
全国	138.9	34.1	140.1	34.0	160.0	48.6	154.9	46.7

《体力・運動能力の比較》

➤ は全道・全国を上回った ➡ は同等程度 ➤ は下回った

種目	判定項目	小5(男子)	小5(女子)	中2(男子)	中2(女子)
握力	筋力	➤	➤	➤	➡
上体起こし	筋持久力	➤	➡	➤	➤
長座体前屈	柔軟性	➤	➤	➤	➡
反復横とび	敏捷性	➡	➤	➡	➡
20mシャトルラン	全身持久力	➤	➤	➤	➤
50m走	走力	➤	➤	➡	➤
立ち幅とび	跳躍力	➤	➤	➤	➤
ソフトボール投げ	投力	➤	➤	➡	➡
ハンドボール投げ	投力	➡	➡	➡	➡

【小学校】

身長と体重は、男子は全道・全国平均値を上回りましたが、女子は若干下回りました。男女ともに2割程度の肥満が見られます。実技では、男女ともに「握力」、「50m走」、「立ち幅とび」が全道・全国平均値を上回りましたが、男女ともに「長座体前屈」、「20mシャトルラン」が下回りました。

【中学校】

身長と体重は、男女ともに全道・全国平均値を下回りました。男女ともに肥満傾向はなく、やせ身傾向が若干見られました。実技では、男子が「20mシャトルラン」、女子が「50m走」で全道・全国平均値を上回りました。男女ともに「反復横とび」、「ハンドボール投げ」がほぼ同等で、「上体起こし」、「立ち幅とび」が下回りました。

《学校での取り組み、成果と課題》

【小学校】

各学校で校内の体力テストや体力向上の目標を設定し、系統的な運動カリキュラムの工夫や指導方法の工夫・改善に取り組みました。

その結果、一例として「体力・運動能力に自信がある」児童の割合が前年度44%から今年度53%に上昇し、全国平均値を上回ったものと考えられます。

一方、体育の授業でのICT活用や授業の最後に振り返り活動を位置付けるなど、学習内容の定着度を向上させる工夫や取り組みが一層必要です。

【中学校】

各学校で保健体育の授業の目標を生徒に示す、振り返りの活動を取り入れる、ICT機器を活用するなどの取り組みの中で、生徒の実態に合った運動課題を段階的に設定しながら指導工夫に取り組みました。

その結果、一例として「難しい種目や技術などにも失敗を恐れず挑戦する」生徒の割合が前年度の70%から今年度の89%に上昇し、全国平均値を上回ったものと考えられます。

一方、生徒が保健体育の授業で学んだことを授業以外にも活用することや、授業で学習した内容が将来の役に立つと思えるような授業改善が必要とされます。

《課題改善に向けて》

- 教育委員会では、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、
- ①体育の授業の最後に振り返りの活動を位置付け、児童生徒にとっての学習の定着度を一層向上させる。
 - ②授業の中で、ICT機器を効果的に活用するなどして、自分の体の動きを客観的に把握・理解し、学習活動の支援とする。
- このように課題改善に向けた方向性を考えました。
- また、次の事項に重点を置きます。
- ①児童生徒の発達段階を踏まえた系統的なカリキュラムやプログラムの工夫とともに、各学年の目標と一人ひとりの具体的な到達目標を設定します。
 - ②学校全体で体力向上に向けた休み時間の活用や学校行事等への取り組みを検討します。
 - ③教員の資質向上を図るため、体育実技研修会等への積極的な参加及び外部の専門的指導者(含地域人材)を活用します。
 - ④学校は家庭と連携し、更に児童生徒の基本的な生活習慣の確立と運動習慣の定着を推進します。
 - ⑤地域のスポーツ少年団や社会教育事業等、日常におけるスポーツ活動組織への加入や参加促進を図ります。